

「令和 4 年度近江八幡市まち・ひと・しごと創生懇話会」に関する講評

令和 5 年 3 月 23 日に、令和 4 年度近江八幡市まち・ひと・しごと創生懇話会が開催された。

本会議は、「近江八幡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づく施策をより効果的に推進するために、事業の進捗状況についての評価・検証と今後の事業の進め方について意見、助言を受けるため開催されたものである。

今回は、令和 4 年度に取り組んだ第 2 期近江八幡市まち・ひと・しごと創生総合戦略の中の 6 事業について、近江八幡市の担当部署から「事業シート」に基づき、要点を整理して説明を受けた後に、質疑応答、意見交換を行った。

懇話会では活発な議論が繰り広げられ、各委員から様々な指摘、意見が出されたので、この内容をまとめ、講評とする。

事業シート NO1「オーブンガバナンス推進事業（老蘇学区）」については、あかこんバスは高齢者だけでなく、子育て世代にとっても重要な都市インフラ、公共交通機関で評価できる。運行ルートや運行時間のさらなる充実も必要である。検討に当たっては、実際に利用している人の声を聞くという姿勢が大切で、移動部会の構成員にも困っている人の声が聞ける構成を考えて欲しいなど、あかこんバスについて議論が集中したが、事業に対する委員の評価は高く、期待も大きい。なお、実際の取り組み内容から「オーブンガバナンス推進事業」という名称はうまくマッチしていないという意見も出された。

事業シート NO2「オーブンガバナンス推進事業」については、オープンデータの内容や見やすさ、使いやすさの問題もあるが、それ以上に、事業の目的を明確にし、市民がこれを利用すればどのようなことがわかるのかといったことや、利用によるインセンティブがないと使われないという指摘があり、このあたり考慮のうえ今後さらに充実して欲しいという意見が出された。

事業シート NO3「近江八幡市版 ESD プログラム」については、SDGs の認知度が高まってきたものの、まだ、市民の理解や周知度は低い。先進的な取り組みについてホームページ等で紹介するとともに、座学で学習するだけでなく、普段の生活の中で取り組んでいることが SDGs につながるというようなアプローチが有効であるという意見が出された。

事業シート NO4「近江八幡市 0 次予防シェアリングプラットフォーム形成事業」については、食は高齢者世帯、共働き世帯など関心のある方が多く、あかこんバスを利用したワンディキッチンや出前方式で色々な場所に出かけることなども検討すべき。体に優しい食品が地域で提供できるようになれば良いなど、健康未来食品販売事業の一層の充実に対する意見が述べられた。

事業シート NO5「富士宮市合同婚活事業」については、近年は、結婚したいが出会いの場、機会がないという人も多い中で、民間でもマッチングアプリなどが増えている。ただ、行政が関与することの安心感はあるので、マスコミに取り上げてもらうことで関心を高めたり、小規模なイベントも実施するなど一層の工夫をした上での実施が必要という意見が出された。

事業シート NO6「脱炭素実行計画策定事業」については、近江八幡市で脱炭素を推進するという大きな事業であるが、単に省エネを推進するというようなことなく、地域とし

て新しいエネルギーづくりを進めるというような取り組みが必要である。この場合、既に全国、世界を見渡すと多くの先進事例があるので、近江八幡市の特性に合わせて考えていくことが必要であるという意見が出された。

以上、各事業に対する委員会の指摘、意見を簡潔に整理したが、各委員から積極的に多くの質問や意見が出されるとともに、行政からも内容や考え方について説明が行われ、施策の推進に向けた建設的な議論が交わされた。

最後に、事業全体を通じて、委員から次のような意見が出された。

- ・若い世代の意見も聞くことが重要である。行政の若い職員に自由に議論してもらい、例えばエネルギーの地産地消問題などは、先行事例を学ぶ（確かめる）ことも大切である。
- ・行政が、意味のある立派な仕事をされていると感じた。特にあかこんバスが、形を変えて地域の足になり、観光にもつながる循環バスとなることを期待する。
- ・子育て支援を中心に活動しているが、今後歳を取るにつれて、あかこんバス利用の必要性は高まる。
- ・若い世代の将来につながるよう、それぞれの地域で一生懸命考えることが重要である。
- ・住んでいて楽しく、わくわくするといったところと近江八幡市の魅力を結びつけることが大切である。
- ・地元のことをよく知ることが大切。街に住んでいる人が、地元のことを再発見できることがベースとなるようなまちづくりを目指すべき。
- ・組織が大きくなると縦割りになってしまい、事業がうまく進んでいかない。若手世代を取り入れて意見交換できるようになれば、明るい未来が見えてくる。
- ・あかこんバスが議論になったが、移動の仕組みは、移動そのものが目的ではなく、「楽しい」や「おいしい」といった目的とセットで作ることが重要である。
- ・エネルギー問題は大変重要である。エネルギー政策は自治体間でも競争状態にあり、近江八幡市の特性を活かしたエネルギー政策について本腰を据えて考える必要がある

（総括）

今回の懇話会も、各委員から多くの積極的な意見、助言が出され、熱心な議論が繰り広げられた。今回対象となった 6 つの事業については、全体として近江八幡市の取組を評価する意見が多かった。特にあかこんバスについては、地域のインフラとしての評価が高く、今後その取り組みを充実、拡大していくべきという意見が多かった。

また、総括の中では、若い世代の声を積極的に取り入れるべきという意見も多く出された。

結びに当たり、近江八幡市の取組をより広く市民に周知することの必要性を感じた。今回の 6 事業も、担当課から説明を受け、意見交換すると委員の理解も深まり、評価も高まったが、説明を受けるまでは、委員も事業内容をよく理解しているわけではない。より多くの市民が、事業内容を知ること、その目的、意義、重要性がわかり、そのことが事業への市民参加にもつながる。折角意義のある事業をしても、市民に周知されていなければその効果は薄まってしまうので、市民への周知、広報のあり方について一層の工夫を求めたい。